疾患別検査ガイド　鼻アレルギー（通年性鼻炎・花粉症）2021 学術講演会報告

ラウンド・テーブル・ディスカッション Q&A

事前に頂戴したご質問に対してご回答いただきました。

Q1　多くの抗アレルギー剤がありますが、具体的な使い分けについて解説をお願いします。

A1　アレルギー性鼻炎に使用する薬剤の主なものには、抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、鼻噴霧ステロイド薬があります。くしゃみや鼻漏がつらい患者には抗ヒスタミン薬と鼻噴霧ステロイドの併用療法を行います。鼻詰まりを強く訴える患者には抗ロイコトリエン薬と鼻噴霧ステロイドの併用か、抗ヒスタミン薬・血管収縮薬配合剤と鼻噴霧ステロイドの併用を処方するのが良いと思います。（回答：後藤先生）

アレルギー性鼻炎に対しては、抗ヒスタミン薬の他、抗ロイコトリエン薬（抗 LTs 薬）、ケミカルメディエーター遊離抑制薬（遊離抑制薬）、抗プロスタグランジン D2・トロンボキサ A2 薬（抗 PGD2・TXA2 薬）、Th2 サイトカイン阻害薬などが使用可能ですが、ガイドラインにも示されるように、鼻閉の有無により病型分けし、くしゃみ・鼻漏型であれば、まずは抗ヒスタミン薬を選択します。実地臨床では、まずは、眠気の軽減された一日１回投与である第２世代抗ヒスタミン薬であるビラノア®、デザレックス®などを用いることが多い。鼻閉があれば、抗 LTs 薬を併用すると効果的です。また、喘息合併している鼻炎患者には上・下気道ともに有効であり、抗 LTs 薬を選択することが多く、また口腔アレルギー症候群の患者や喉頭アレルギーを有する鼻炎患者であれば、基本的には抗ヒスタミン薬を投与しています。（回答：春田先生）

Q2　花粉の飛散時期ではないのにアレルギー症状がある場合、他にどのような原因物質が考えられますか？

A2　その症状がアレルギーによるものかどうか評価すべきです。皮膚テストや血液検査で複数の IgE 抗体を検査して陽性のものがあるかどうか、鼻汁好酸球検査が陽性かどうかなど、アレルギー性鼻炎の鑑別診断を行います。鑑別疾患として血管運動性鼻炎や好酸球増多性鼻炎があげられます。また、花粉症以外の通年性アレルギー性鼻炎（ダニ、ペット、真菌など）が原因である可能性も考慮すべきだと思います。（回答：後藤先生）

Q3　鼻うがいは、アレルギー性鼻炎に効果がありますか。

A3　花粉などの抗原やアレルギー炎症を来す化学伝達物質を洗い流すことから有効です。ただし真水では粘膜を痛めるので、市販のものを用いるか、水500ml に 5g の食塩を溶かしたものを使用してください。（回答：渡部先生）